

D T M—第5回

どうもこんばんは。

今回は、今までの講義の演習ということで展開していきます。

とりあえず、一通り確認しておきましょうか。

第1回：画面の説明等をしました。ピアノロールやミキサーの表示など。

第2回：音の打ち込み方や音源の差し替えをやりました。ステップシーケンサーによる打ち込み、ピアノロールによる打ち込み、ブラウザから音源を持つてくる方法。

第3回：音の編集方法、エフェクトのかけ方をやりました。ミキサーのインサートトラック割り振り、センドトラックとインサートトラックの違い、各エフェクトの紹介。

第4回：音源の紹介をしました。一部保存されない音源がありましたね。また、ドラムセットの音源差し替えもやりました。Synth1 の使い方、オシレーター等の説明。

これらを踏まえたうえで、とりあえず自分で何か1曲作ってみましょうか。

- ・お題は「Windows の起動時の音」or「Windows の終了時の音」ぽいやつ。
- ・つまるところPC立ち上げor 終了時の音にふさわしそうな曲をどうぞ。
- ・エフェクトの処理しっかりと。
- ・パターンはいくつ使ってもかまいません。
- ・ファイルを保存する関係で、ピアノロールが保存されない音源を使う場合は要注意すること。
- ・音の長さは5～10秒くらいで。

出来たら wiki に晒しあげてください。

※音打ち込みのヒント

繰り返しは結構重要だったりします。繰り返すことで、自分が伝えたいメロディを記憶に残してもらえるからです。

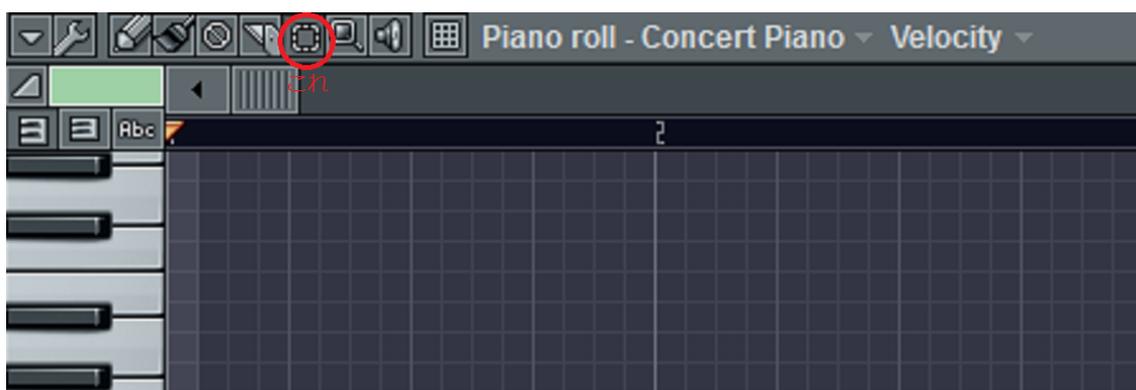
しかし、毎回打ち込むのは大変です。

そこで、コピペの方法を教えます。

2通りあります。

まず、小規模なコピペをする場合。

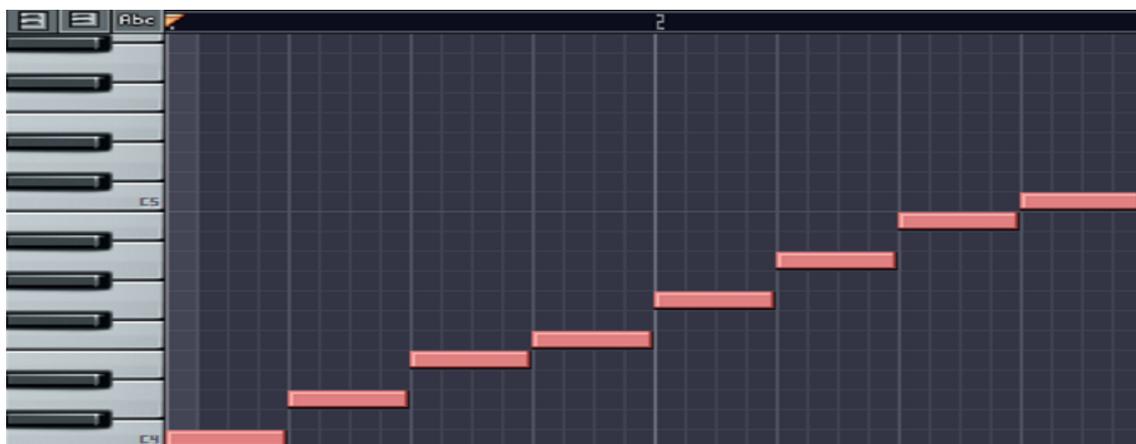
このアイコンをクリック。



これが、「範囲選択」のスイッチになります。

クリック&ドラッグして範囲内にあるノーツを赤くします。

「SHIFT」を押しながらドラッグを繰り返すことで、一回で選択できない範囲も続けて選択できます。こんな感じに。



この状態で赤くなったノーツ上でノートを移動させると、赤い部分全体が連なって移動します。また、長さも連動して変化させることができます。

また、この状態で「SHIFT」を押しながらノートを移動させると、赤い部分のコピーが生成されます。

この赤い状態というのは、新しいノーツを打ち込んだ時に解除されます。
気をつけてください。

また、ピアノロール左側の鍵盤上で範囲選択を行うと、そのピアノロール上の、その音すべてが選択されます。

例えばこんな感じ。



鍵盤上をドラッグすることで、かなりの広範囲を一括して選択することができます。

では、範囲選択の話から、大規模コピーの話になります。

範囲選択の方法は同じです。

範囲選択が終わったら、「EDIT」→「Copy」でコピーが完了します。

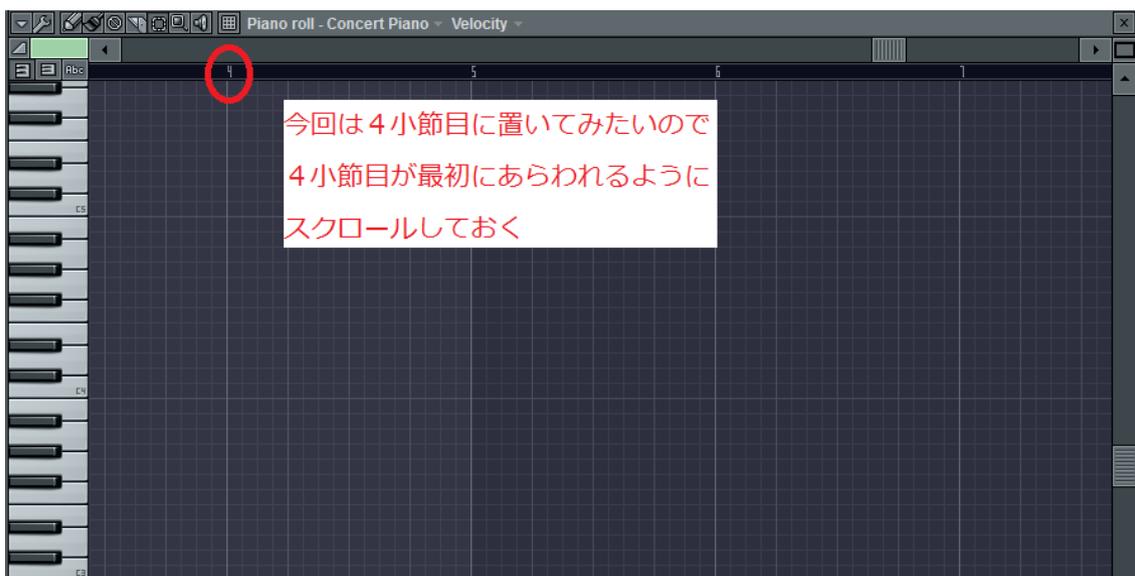


こんな感じ。

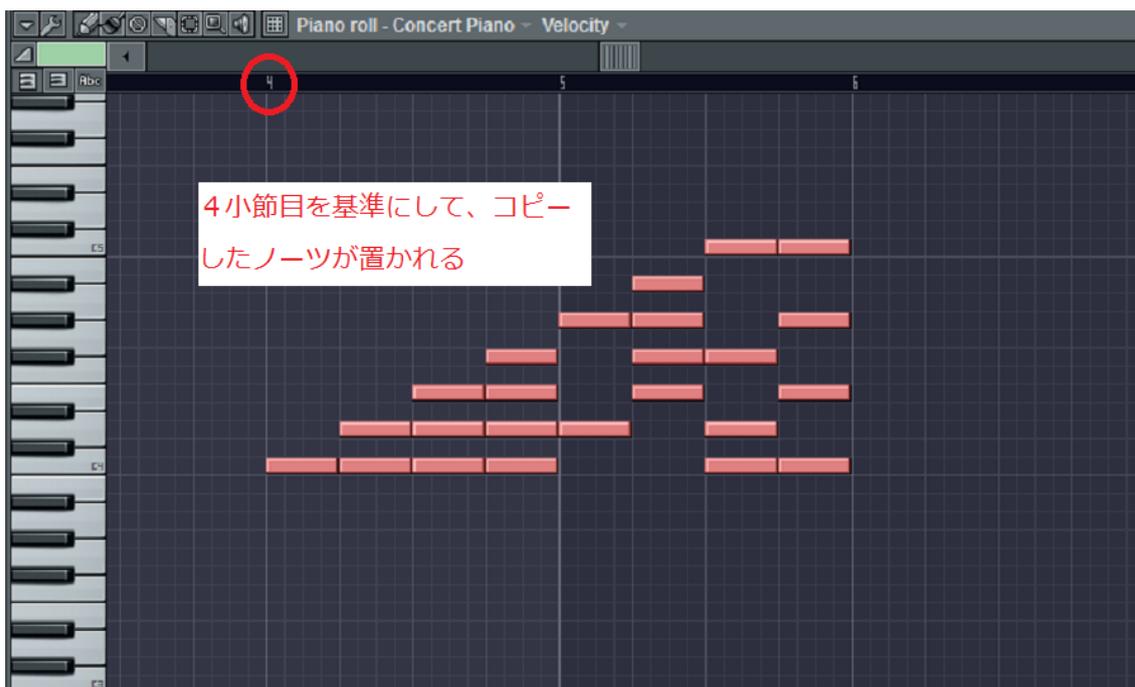
そしたら、ペーストです。

コピーしたものを置きたい小節線が、ピアノロール上で一番最初にあられるようにします。

つまりこんな感じ。



この状態で「EDIT」→「Paste」を実行すると…



こんな風にノーツが置かれます。

こうしたコピー技術を取り入れることで、作業も多少はかどるのではないのでしょうか。